

16. 航空機に係る排出量

本項では、航空機に係る排出量として「エンジン」、「補助動力装置(APU)」の2つの排出源区分に係る排出量の推計方法を示す。

I エンジン

(1) 排出の概要

① 推計対象物質

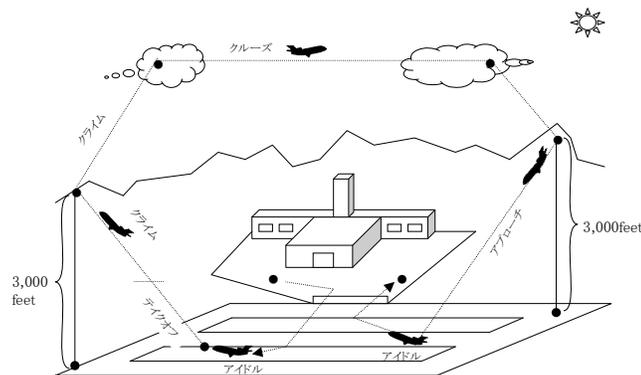
国内の民間空港を離着陸する航空機エンジンの排気口から排出される物質のうち、国内で実測データがあるアセトアルデヒド(管理番号:12)、キシレン(80)、トルエン(300)、1,3-ブタジエン(351)、ベンゼン(400)、ホルムアルデヒド(411)の6物質を対象とした。

② 推計対象とする範囲

上空飛行時には、一般に排出ガスの地上への影響は少ないと考えられ、また、対象物質を排出した地域を特定することが困難なことから、環境アセスメント等で航空機の排出ガスの環境影響の評価に一般的に使用されるLTO(Landing and Take Off)サイクル※(図16-1)による高度3,000フィート(約914メートル)までの離着陸に伴う排出を推計の対象とした。また、3,000フィートまでであっても、着陸及び離陸に伴って都道府県境を越えて飛行する場合は、空港がある都道府県から排出しているとみなした。

また、ヘリコプターの着陸しかないことが明らかな空港については推計対象から除外した。

※:LTOサイクルは「アプローチ」、「アイドル」、「テイクオフ」、「クライム」の運転モードで構成されている。



出典:Atmospheric Emission Inventory Guidebook (EMEP/CORINAIR,1999)

注1:feet=0.3048mであり、3000feetは914.4mである。

注2:アイドル、テイクオフ、クライム、クルーズ、アプローチは航空機の運航モードの名称であり、「アイドル」が滑走路に向かう際等の地上を走行するモード、「テイクオフ」が主に滑走路から離陸するまでのモード、クライムが離陸してから高度を上げていく際のモード、「クルーズ」が上空を航行する際のモード、「アプローチ」が滑走路に向けて着陸する際のモードをいう。

図 16-1 航空機に係るLTOサイクル

③推計対象機種

推計対象とする機種を表 16-1 に示す。

表 16-1 推計対象とする航空機の機種

機種名略称	機種名
B737-700	ボーイング 737-700
B737-800	ボーイング 737-800
B737-900	ボーイング 737-900
B737MAX	ボーイング 737MAX
B748	ボーイング 747-8
B763	ボーイング 767-300
B772	ボーイング 777-200
B773	ボーイング 777-300
B787	ボーイング 787
A220	エアバス A200
A320	エアバス A320(-200 以外)
A320neo	エアバス A320neo
A321	エアバス A321
A321neo	エアバス A321neo
A322	エアバス A320-200
A330	エアバス A330(-300 以外)
A333	エアバス A330-300
A339	エアバス A330-900
A351	エアバス A350-1000
A359	エアバス A350-900
A380	エアバス A380
AT4	ATR42-600
CRJ	ボンバルディア(カナデア) CRJ100/200
DH8	デ Havilland DHC-8 タッシュ 8 (Q400 以外)
ERJ170	エンブラエル 170
ERJ190	エンブラエル 190
YS11	日本航空機製造 YS-11

出典:定期航空協会調べ(2025年)、JTB時刻表(2024/4)に基づき作成

(2)利用したデータ

利用したデータは、航空機の排出係数及び燃料消費量に関するデータである。利用した具体的なデータの種類とその資料名を表 16-2 に示す。

表 16-2 航空機(エンジン)に係る排出量推計に利用したデータ(2024 年度)

	データの種類	資料名等
①	エンジン別・運転モード別 THC 排出係数	Aircraft Engine Emissions Individual Datasheets (European Union Aviation Safety Agency, 2025) (https://www.easa.europa.eu/domains/environment/icao-aircraft-engine-emissions-databank)
		THE IMPACT OF NATIONAL AIRSPACE SYSTEMS (NAS) MODERNIZATION ON AIRCRAFT EMISSIONS (The Federal Aviation Administration, 1998)
②	機種とエンジン種類の対応	定期航空協会調べ(2025 年)
③	対象化学物質排出量の対 THC 比率 (JT9D-7R4D)	航空機ジェットエンジン排出物の実測とその測定 結果(1999 年、航空環境研究 No.3) EMEP/EEA air pollutant emission inventory guidebook - 2009
④	国内使用エンジンの離陸推力	航空統計要覧(平成 12 年 12 月:(財)日本航空 協会)
		①と同じ
⑤	運転モード別の離陸推力と燃料消費量 の関係式	②と同じ
⑥	国内主要空港における LTO サイクルの 空港別・運転モード別継続時間	航空機排出大気汚染物質削減手法検討調査報 告書(平成 9 年 3 月:環境庁)
		平成 12 年度 PRTR パイロット事業報告書(平成 13 年 8 月、経済産業省・環境省)
⑦	空港別の全機種合計の年間着陸回数 (回/年)(令和 6 年度分)	空港管理状況調書(令和 7 年、国土交通省)
⑧	国内航空会社*の空港別・機種別年間 着陸回数(回/年)(令和 6 年度分)	②と同じ
⑨	⑧以外の国内航空会社及び海外航空会 社の空港別の機種別着陸回数構成比 (%) (令和 6 年度分)	JTB 時刻表 2024/4

※:「国内航空会社」とは定期航空協会会員である国内の航空会社 19 社を示す。定期航空協会以外の国内航空会社には北海道エアシステム等がある。

(3) 推計方法の基本的考え方と推計手順

航空機(エンジン)に係る排出量は、実測データ及び文献値等から設定した燃料消費量あたりの対象化学物質の排出係数(mg/kg-燃料)に、機種別の離着陸時の燃料消費量(kg-燃料/LTOサイクル)、空港別・機種別の年間着陸回数を乗じることにより、空港別の対象化学物質の排出量を推計した。

航空機(エンジン)からの排出量の推計手順を図 16-2 に示す。なお、図中のデータ①～⑨の番号は表 16-2 の番号に対応している。

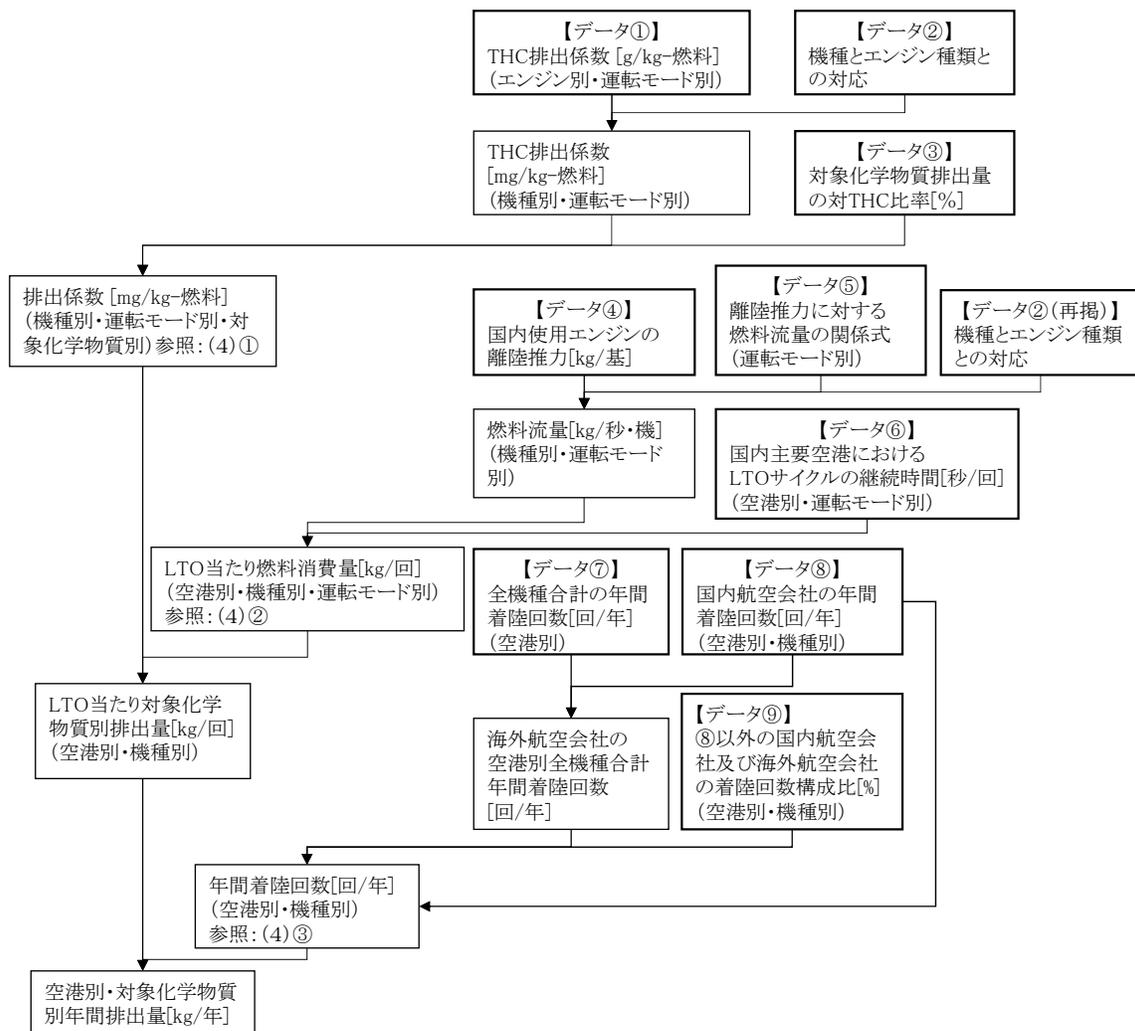


図 16-2 航空機(エンジン)に係る排出量の推計フロー

(4) 推計方法の詳細

航空機(エンジン)に係る排出量は、燃料消費量当たりの排出係数に燃料消費量を乗じる方法により推計した。

①対象化学物質別排出係数の算出

排出係数はエンジン別の全炭化水素(以下「THC」という。)排出係数に対象化学物質の比率を乗じて算出した。

THC 排出係数に対して、対 THC 比率を乗じて対象化学物質別の排出係数を得た。対 THC 比率は国内の実測データから算出した(表 16-3)。

THC 排出係数は機種ごとに、主に使用されているエンジンを設定して、European Union Aviation Safety Agency(EASA)等のエンジン別・排出係数データのうち測定年月が最新のデータを使用した。機種とエンジンの対応および THC 排出係数を表 16-4 に示す。

表 16-3 航空機(エンジン)に係る対象化学物質排出量の対 THC 比率

対象化学物質		対 THC 比率 ^{※1}			
管理番号	物質名	テイクオフ	クライム ^{※2}	アプローチ	アイドル
12	アセトアルデヒド	0%	0%	1.2%	0.49%
80	キシレン	0.071%	0.071%	0.038%	0.35%
300	トルエン	0.028%	0.028%	0.067%	0.30%
351	1,3-ブタジエン ^{※3}	0.18%	0.18%	0.085%	0.81%
400	ベンゼン	0.18%	0.18%	0.090%	0.86%
411	ホルムアルデヒド	0%	0%	0%	0.41%

出典:「航空機ジェットエンジン排出物の実測とその測定結果」(1999年、航空環境研究 No.3)

※1:エンジン種類 JT9D-7R4D の測定結果より算出した。

※2:クライムの対象化学物質別濃度は未測定であるため、クライムの THC と同じ濃度であったテイクオフの値を使用した。

※3:1,3-ブタジエンについては、国内実測データが利用できなかったため、ベンゼンの実測データと、欧州(EMEP/EEA air pollutant emission inventory guidebook - 2009)におけるベンゼンと1,3-ブタジエンの排出係数の比率(下記)から、国内における排出係数を設定した。

ベンゼン:1,3-ブタジエン=1.9:1.8

表 16-4 航空機の機種別 THC 排出係数

機種名略称	エンジン名	THC 排出係数 (g/kg-燃料)				出典
		テイク オフ	クラ イム	ア プ ローチ	アイ ドル	
B737-700	CFM56-7B24	0.10	0.10	0.10	2.40	2
B737-800	CFM56-7B24	0.10	0.10	0.10	2.40	2
B737-900	CFM56-7B24	0.10	0.10	0.10	2.40	2
B737MAX	LEAP-1B	0.05	0.04	0.05	0.57	2
B748	GE _{nx} -2B67	0.02	0.02	0.06	0.57	2
B763	CF6-80C2B6F	0.06	0.06	0.14	4.20	2
B772	PW4077	0.10	0.10	0.20	3.00	2
B773	PW4090/GE90-94B/Trent 884B	0.03	0.02	0.04	1.15	2
B787	Trent1000/GE _{nx} -1B	0.01	0.01	0.03	0.27	2
A220	PW1524G	0.03	0.03	0.10	0.10	2
A320	CFM56-5A/CFM56-5B	0.09	0.10	1.24	3.02	2
A320neo	PW1127G-JM	0.04	0.05	0.04	0.33	2
A321	V2530-A5/CFM56-5B	0.08	0.09	1.24	2.99	2
A321neo	PW1133G-JM	0.04	0.05	0.04	0.22	2
A322	CFM56-5B4	0.10	0.10	0.13	3.87	2
A330	CF6-80E1A1	0.05	0.06	0.13	5.49	2
A333	CF6-80E1A4	0.05	0.06	0.14	5.64	2
A339	Trent 7000	0.00	0.00	0.00	0.00	2
A351	Trent XWB-97	0.00	0.00	0.00	0.30	2
A359	Trent XWB-84	0.00	0.00	0.01	1.00	2
A380	Trent900	0.01	0.09	0.06	0.09	2
AT4	PW127(PW125B で代用)	0.00	0.00	0.00	0.00	3
CRJ	CF34-3B1(CF34-3B で代用)	0.06	0.05	0.13	4.69	2
DH8	PW121(PW125B で代用)	0.00	0.00	0.00	0.00	3
ERJ170	CF34-8E5	0.02	0.02	0.06	0.13	2
ERJ190	CF34-10E	0.04	0.07	0.10	4.84	2
YS11	MK542-10J/K(M45H-01 で代用)	0.00	0.74	7.40	59.50	2

出典 1:機種名略称及びエンジン名:定期航空協会調べ(2025年)及び航空機メーカー各社HPに基づき作成

出典 2:Aircraft Engine Emissions Individual Datasheets (European Union Aviation Safety Agency, 2025)

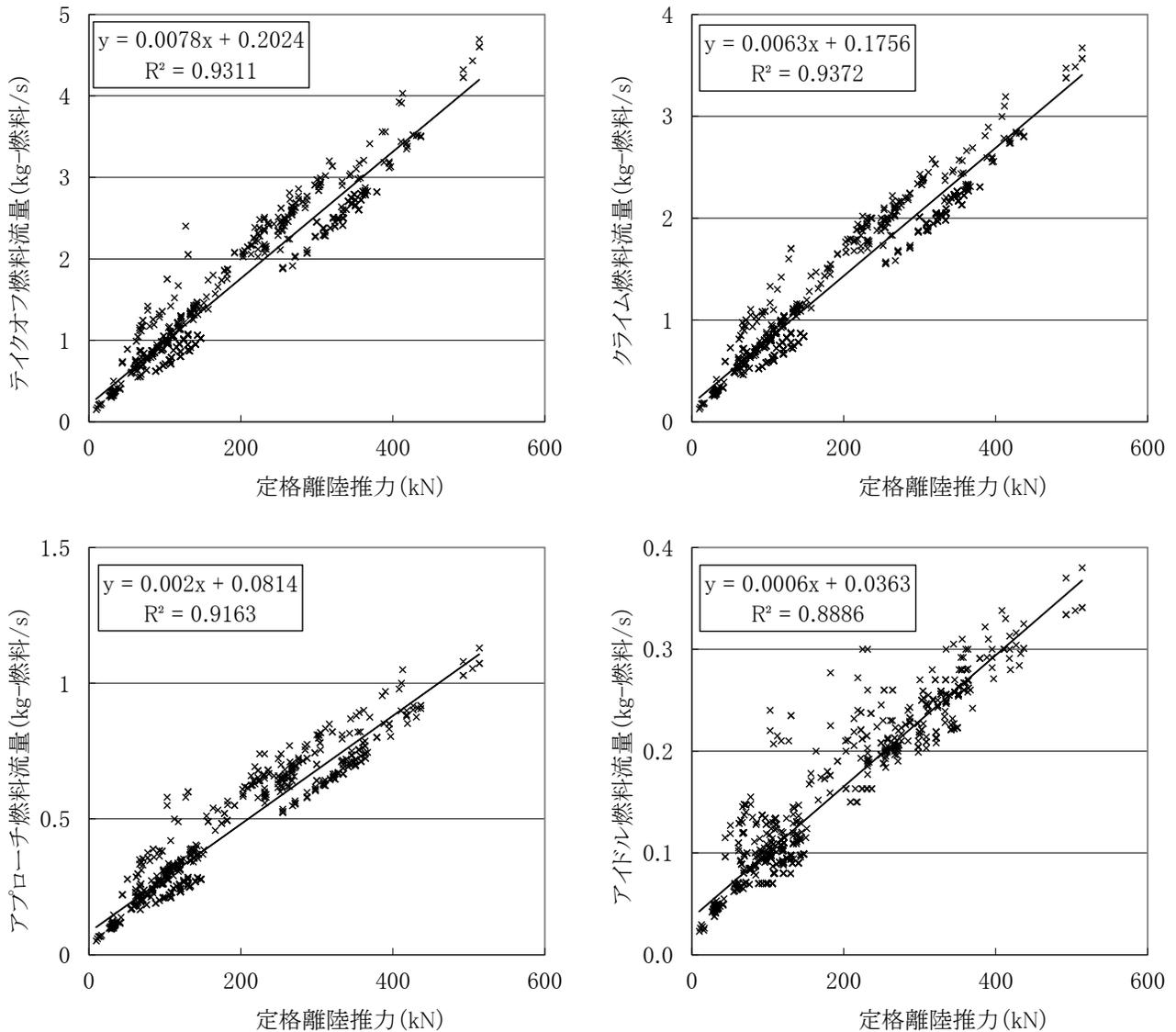
(<https://www.easa.europa.eu/domains/environment/icao-aircraft-engine-emissions-databank>)

出典 3:THE IMPACT OF NATIONAL AIRSPACE SYSTEMS (NAS) MODERNIZATION ON AIRCRAFT EMISSIONS(The Federal Aviation Administration, 1998)

注:エンジン名の項目に()で示したエンジンは当該エンジンの排出係数が得られなかったため、排出係数を代用したエンジン名。Trent1000は出典1にて数種類(Trent1000-A、-C、-D、-E、-G、-H等)のデータがあるため、これらの平均値を使用した。

②LTO サイクルに係る機種別・運転モード別の燃料流量の算出

エンジン別・運転モード別の燃料流量は、エンジン種類ごとの実測値が得られる場合は実測値を用い、実測値が得られない場合には離陸推力と燃料流量の関係式(図 16-3)を用いて算出した。機種別・運転モード別燃料流量に関して、実測値及び関係式より算出した値を表 16-5 に示す。



出典: Aircraft Engine Emissions Individual Datasheets (European Union Aviation Safety Agency, 2025)
<https://www.easa.europa.eu/domains/environment/icao-aircraft-engine-emissions-databank>

図 16-3 定格離陸推力と燃料流量の関係

表 16-5 航空機機種ごとの定格離陸推力、エンジン基数及び燃料流量の推計結果

機種名 略称	エンジン	定格 離陸 推力 (kN)	エン ジン 基数	燃料流量(kg-燃料/秒)				出典
				テイ ク オフ	クラ イム	ア プ ロー チ	アイ ドル	
B737-700	CFM56-7B24	107.7	2	1.103	0.910	0.316	0.109	1
B737-800	CFM56-7B24	107.7	2	1.103	0.910	0.316	0.109	1
B737-900	CFM56-7B24	107.7	2	0.790	0.650	0.230	0.080	1
B737MAX	LEAP-1B	123.3	2	0.998	0.814	0.268	0.094	1
B748	GEEx-2B67	299.8	4	2.451	2.012	0.701	0.216	1
B763	CF6-80C2B6F	267.0	2	2.576	2.076	0.669	0.201	1
B772	PW4077	343.0	2	3.019	2.452	0.816	0.232	1
B773	PW4090/GE90-94B/Trent 884B	415.5	2	3.628	2.891	0.933	0.307	1
B787	Trent1000/GEEx-1B	323.8	2	2.473	2.022	0.656	0.232	1
A220	PW1524G	108.5	2	0.790	0.650	0.230	0.080	1
A320	CFM56-5A/CFM56-5B	118.8	2	1.150	0.939	0.320	0.107	1
A320neo	PW1127G-JM	120.4	2	0.800	0.667	0.232	0.083	1
A321	V2530-A5/CFM56-5B	120.4	2	1.169	0.954	0.326	0.109	1
A321neo	PW1133G-JM	147.3	2	1.023	0.839	0.278	0.099	1
A322	CFM56-5B4	117.9	2	1.166	0.961	0.326	0.107	1
A330	CF6-80E1A1	281.5	2	2.702	2.199	0.714	0.226	1
A333	CF6-80E1A4	297.4	2	2.904	2.337	0.744	0.227	1
A339	Trent 7000	322.1	2	2.427	1.984	0.657	0.254	1
A351	Trent XWB-97	436.7	2	3.501	2.800	0.914	0.309	1
A359	Trent XWB-84	379.0	2	2.819	2.306	0.801	0.291	1
A380	Trent900	342.7	4	2.649	2.198	0.729	0.264	1
AT4	PW127	24.3	2	0.391	0.328	0.130	0.052	2
CRJ	CF34-3B1	41.0	2	0.521	0.433	0.163	0.063	2
DH8	PW121	24.3	2	0.391	0.328	0.130	0.052	2
ERJ170	CF34-8E5	59.7	2	0.652	0.533	0.180	0.064	1
ERJ190	CF34-10E	81.0	2	0.836	0.690	0.233	0.086	1
YS11	MK542-10J/K	32.4	2	0.454	0.379	0.146	0.057	2

出典 1: Aircraft Engine Emissions Individual Datasheets (European Union Aviation Safety Agency, 2025)

(<https://www.easa.europa.eu/domains/environment/icao-aircraft-engine-emissions-databank>)

出典 2: 定格離陸推力と燃料流量の相関関係(図 16-3)から算出

注: 本表に記載されていない航空機機種が不明のものは、航空機使用事業による着陸回数と仮定し、YS-11 相当の小型航空機の着陸とみなした。

③LTO サイクルに係る全国合計の対象化学物質別の年間排出量の推計

②で算出した燃料流量に対して、空港別・運転モード別継続時間を乗じて空港別・機種別・運転モード別燃料消費量を推計した。運転モード別継続時間は成田国際空港、東京国際空港(羽田空港)、大阪国際空港(伊丹空港)、関西国際空港については「航空機排出大気汚染物質削減手法検討調査報告書」(平成9年3月:環境庁)より得られる。その他の空港については、「平成12年度PRTRパイロット事業報告書」(平成13年8月:経済産業省・環境省)の数値を適用した(表16-6)。この燃料消費量に対して①で算出した排出係数を乗じて、空港別・機種別の対象化学物質別の1機あたりの排出量を推計した。これに対して、空港別・機種別着陸回数を乗じて、空港別・対象化学物質別排出量を推計し、結果をⅢ 推計結果に示した。

表 16-6 空港ごとの LTO 継続時間

空港名	継続時間(秒)				出典
	テイクオフ	クライム	アプローチ	アイドル	
成田国際空港	45 秒	60 秒	270 秒	1,387 秒	1
東京国際空港(羽田空港)	45 秒	60 秒	270 秒	903 秒	1
大阪国際空港(伊丹空港)	45 秒	60 秒	270 秒	934 秒	1
関西国際空港	45 秒	60 秒	270 秒	1072 秒	1
上記以外の空港	45 秒	60 秒	270 秒	943 秒	2

出典 1:航空機排出大気汚染物質削減手法検討調査報告書(平成9年3月:環境庁)

出典 2:平成12年度PRTRパイロット事業調査報告書(平成13年8月:経済産業省・環境省)

注:成田国際空港、東京国際空港(羽田空港)、大阪国際空港(伊丹空港)、関西国際空港のアイドル継続時間は国際線と国内線の算術平均を用いた。

空港別・機種別年間着陸回数については、以下のとおり推計した。空港別の着陸回数総合計は「令和7年度空港管理状況調書」(国土交通省)に記載の2024年度分の着陸回数を用いた。この着陸回数の機種別の内訳については、定期航空協会の会員航空会社については、定期航空協会調べの空港別・機種別着陸回数を使用した。定期航空協会の会員でない航空会社及び海外の航空会社については、「JTB時刻表2024/4」(2024年4月1日発行)より、1週間分の航空ダイヤの空港別・機種別着陸回数(2024年度分)を年換算し、使用した。定期航空協会調べの着陸回数及びJTB時刻表から推計した着陸回数の合計が空港管理状況調書の着陸回数に満たない空港については、その差を航空機使用事業による着陸回数と仮定し、YS-11相当の小型航空機の着陸とみなした。上記の差分にはヘリコプターやグライダーの着陸回数が含まれると考えられるが、現時点では推計に必要な十分なデータが得られていないため、上記の仮定を行った。定期航空協会調べの着陸回数が、空港管理状況調書の着陸回数を上回った場合には、定期航空協会調べの機種別着陸回数構成比で配分した。

上記の方法により推計した空港別・機種別年間着陸回数を表16-7に示した。

表 16-7 空港別・機種別年間着陸回数(回/年)の推計結果(2024年度)(2/2)

空港名	年間着陸回数(回/年)																								合計				
	B763	B772	B773	A320	A322	A321	A330	A333	DH8	CRJ	B737-700	B737-800	ERJ170	A380	B787	B748	ERJ190	AT4	A359	A320neo	A321neo	B737MAX	A220	A339		A351	B737-900	YS11	
富古	165	0	0	0	0	0	0	0	1,890	0	0	3,553	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,589	9,197
下地	0	0	0	166	0	0	0	0	0	0	10	1,340	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	487	2,203	
多良間	0	0	0	0	0	0	0	0	713	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	88	801	
波留間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	125	125	
与那国	0	0	0	0	0	0	0	0	1,763	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	73	1,836	
札幌(丘珠)	0	0	0	3,072	0	0	0	0	0	0	0	614	0	0	0	0	0	0	5,932	0	0	0	922	0	0	0	0	10,540	
三沢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	738	6	0	0	0	1,074	180	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2,000	
小松	140	5	1	399	0	513	0	0	713	2	0	3,693	0	0	169	0	2	0	0	0	0	0	156	0	0	0	1,564	7,357	
妻良(米子)	0	0	0	0	0	52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,778	2,830	
徳島	1,234	0	0	815	0	93	0	0	0	0	0	1,395	718	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	544	4,808	
瀬布	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,340	6,340	
四野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,338	0	0	0	0	0	0	0	0	1,073	17,111	
開成	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,873	4,873	
天草	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,437	1,437	
大分県立	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	583	583	
鹿野	0	0	0	318	0	37	0	0	0	0	0	97	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	373	825	
中部国際	961	30	365	7,967	156	3,170	0	1,095	2,140	2,173	726	18,329	0	0	845	4	1	0	730	1,460	782	313	0	0	0	730	5,625	47,604	
神戸	173	0	0	243	0	358	0	0	0	0	727	10,758	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,420	16,684	
藤原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	932	0	0	0	0	0	0	0	104	104	0	0	0	0	0	4,030	5,171	
茨城	0	0	0	104	0	0	0	0	0	0	0	2,557	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	418	3,079	
小笠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19,430	19,430	
岩国	10	0	0	16	0	64	0	0	0	0	0	2,079	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,169		
石原	266	0	0	1,642	0	2	0	0	2,216	0	0	4,103	0	0	62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,533	12,824	
合計	66,910	15,416	21,326	140,159	5,579	62,054	1,460	23,516	59,488	20,181	19,531	292,949	49,315	1,415	99,774	2,824	32,643	37,357	35,826	4,380	9,751	7,283	365	3,076	730	3,650	284,113	1,301,075	

注 1: 空欄は当該機種の着陸がないことを示す。

注 2: 「空港管理状況調査(令和 6 年度分)」、「令和 7 年、国土交通省」、「定期航空協会調べ(2025 年)」、「2025 年、定期航空協会」及び「JTB 時刻表 2024/4」(2024 年 4 月 1 日、JTB)に基づいて推計した。

注 3: 定期航空協会調べの着陸回数及び JTB 時刻表から推計した着陸回数の合計が空港管理状況調査の着陸回数に満たない空港については、その差を航空機使用事業による着陸回数と仮定し、YS-11 相当の小型航空機の着陸とみなした。

II 補助動力装置 (APU)

(1) 排出の概要

① APU (Auxiliary Power Unit) の概要

補助動力装置 (以下「APU」という。)とは、推進のためのエンジンとは別に機上に装備された動力装置であり、離着陸時やエンジン停止時の機内冷暖房用等の動力源として利用される。

② 推計対象物質

航空機 (エンジン) と同じく、アセトアルデヒド (12)、キシレン (80)、トルエン (300)、1,3-ブタジエン (351)、ベンゼン (400)、ホルムアルデヒド (411) の 6 物質を推計対象とした。

(2) 利用したデータ

APU による排出ガス排出量推計に利用したデータを表 16-8 に示す。

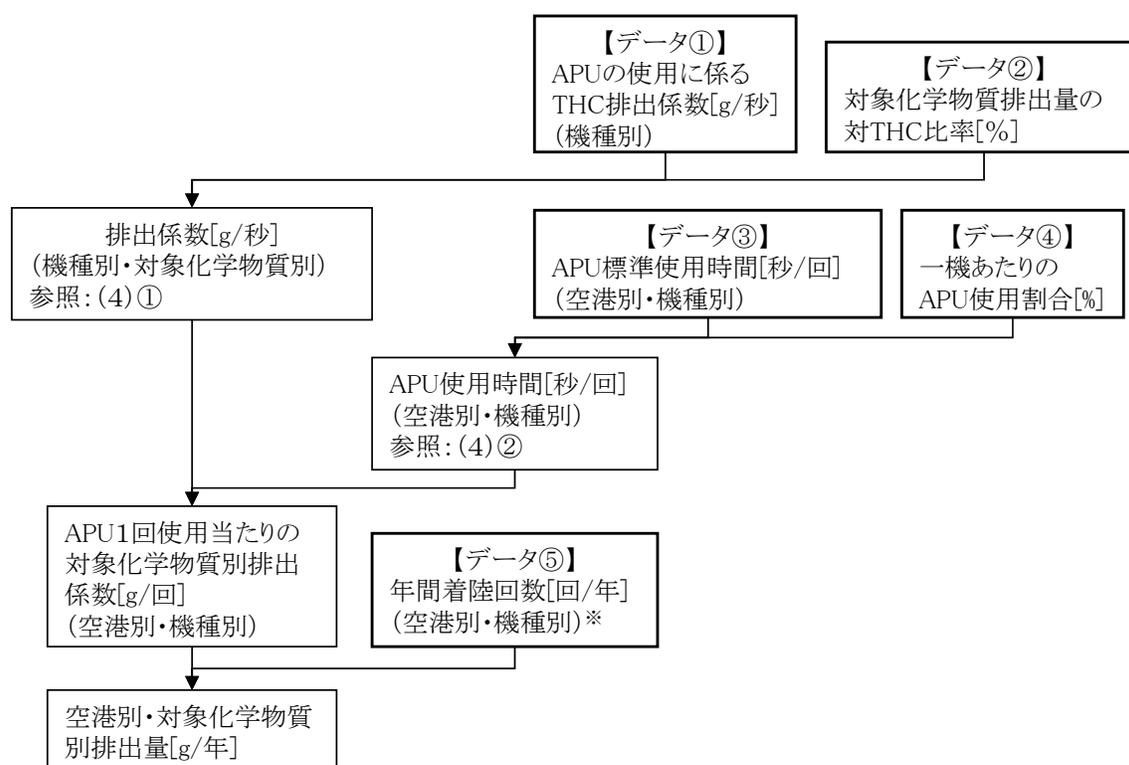
表 16-8 APUに係る排出量推計に利用したデータ(2024 年度)

	データ種類	資料名等
①	APU の使用に係る THC 排出係数 (g/秒)	航空機排出大気汚染物質削減手法検討調査報告書 (平成 9 年 3 月、環境庁)
②	対象化学物質排出量の対 THC 比率 (JT9D-7R4D のアイドル時)	航空機ジェットエンジン排出物の実測とその測定結果 (1999 年、航空環境研究 No.3)
③	空港別・機種別 APU 標準使用時間 (秒/回)	航空各社へのヒアリング (2005 年)
④	一機当たりの APU 使用割合 (%)	定期航空協会調べ (2003 年)
⑤	空港別・機種別年間着陸回数 (回/年)	空港管理状況調書 (令和 7 年、国土交通省) 定期航空協会調べ (2025 年) JTB 時刻表 2024/4

(3) 推計方法の基本的考え方と推計手順

航空機(APU)に係る排出量は、APU 使用時間当たりの対象化学物質の排出係数(kg/秒)に、APU の使用時間、空港別・機種別の年間着陸回数を乗じることにより空港別の対象化学物質の排出量を推計した。

航空機(APU)からの排出量の推計手順を図 16-4 に示す。なお、図中のデータ①～⑤の番号は表 16-8 の番号に対応している。



※ I エンジンで推計した表 16-7 の数値を使用

図 16-4 航空機(APU)に係る排出量の推計フロー

(4) 推計方法の詳細

APU 使用時間当たりの THC 排出係数に、APU 使用時間を乗じて排出量を推計した。これらのデータを表 16-9 に示す。使用時間については、一機当たりの APU 使用割合が把握できる新千歳空港、成田空港、羽田空港、伊丹空港、関西空港、福岡空港、那覇空港(表 16-10 参照)では APU の使用時間に制限があるため、標準的な使用時間として機種に関わらず 30 分とした。また、これらの空港では地上電源等を使用し、APU を使用しない場合があることから、設定値の 30 分に APU 使用割合を乗じた時間を実際の APU 使用時間とした。空港別・機種別着陸回数はエンジンの推計と同様の設定方法を用いた。

THC 排出量に対する対象化学物質排出量の比率は JT9D-7R4D エンジンのアイドル時の値を採用した(出典:航空機ジェットエンジン排出物の実測とその測定結果(平成 11 年、航空環境研究 No. 3))。

表 16-9 APU に係る機種別 THC 排出係数及び使用時間

機種名略称	排出係数を 適用した機種名	THC 排出係数 (g/秒)	使用時間(分/回)	
			空港 1	空港 1 以外の空港
B737-700	B3	0.072	30	30
B737-800	B3	0.072	30	30
B737-900	B3	0.072	30	30
B737MAX	B3	0.072	30	30
B748	B4	0.036	30	30
B763	B6	0.053	30	40
B772	B6	0.053	30	50
B773	B6	0.053	30	50
B787	B6	0.053	30	30
A220	A32	0.012	30	30
A223	A320	0.012	30	30
A320	A32	0.012	30	30
A321	A32	0.012	30	30
A321neo	A32	0.012	30	30
A322	A32	0.012	30	30
A330	A3	0.017	30	30
A333	A3	0.017	30	30
A339	A3	0.017	30	30
A359	A340	0.014	30	30
A380	A340	0.014	30	30
AT4	YS*	-	-	-
CR7	YS*	-	-	-
CRJ	YS*	-	-	-
DH8	YS*	-	-	-
ERJ170	YS*	-	-	-
航空機使用事業	YS*	-	-	-

出典 1(排出係数):航空機排出大気汚染物質削減手法検討調査(平成 9 年 3 月:環境庁)

出典 2(使用時間):航空各社へのヒアリング(2005 年)

注 1:「排出係数を適用した機種名」は出典 1 の機種名を示す。

注 2:THC 排出係数が「-」は補助動力装置を装備していないことを示す。

注 3:「YS*」は APU の有無が不明のため、離陸推力から判断し、YS と同様に APU を装備していないと見なした。

JTB 時刻表から推計した着陸回数の合計が空港管理状況調査の着陸回数に満たない空港については、その差を航空機使用事業による着陸回数と仮定し、YS-11 相当の小型航空機の着陸とみなしている。

注 4:新千歳空港、成田空港、羽田空港、伊丹空港、関西空港、福岡空港、那覇空港を空港 1 とした。それらの空港は APU 使用時間の制限が 30 分のため、機種に関わらず使用時間を 30 分とした。

表 16-10 1機あたりの APU 使用割合

空港名	1機あたりの APU 使用割合
成田	18%
羽田	49%
伊丹	49%
関西	50%
新千歳	49%
福岡	69%
那覇	48%

出典:定期航空協会調べ(2005年)

注:本表以外の空港においては1機当たりの APU 使用割合を 100%と仮定した。

Ⅲ 推計結果

「Ⅰ エンジン」及び「Ⅱ 補助動力装置 (APU)」に示した方法により推計した結果を表 16-11 に示す。航空機に係る対象化学物質の排出量の合計は、約 84トンと推計された。

表 16-11 航空機に係る排出量の推計結果(2024年度)

管理 番号	対象化学物質名	年間排出量 (kg/年)		
		エンジン	APU	合計
12	アセトアルデヒド	14,806	213	15,019
80	キシレン	8,781	153	8,934
300	トルエン	7,627	132	7,758
351	1,3-ブタジエン	20,228	352	20,580
400	ベンゼン	21,351	372	21,723
411	ホルムアルデヒド	10,182	179	10,361
	合計	82,974	1,401	84,375